

こっぽいや事業の今後について

101匠の会の次世代育成を。

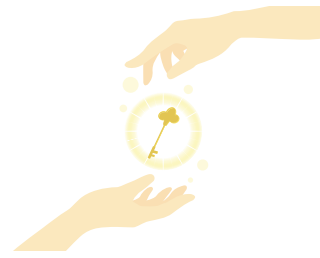


こっぽいやベル店(農業公社ホームページより)

汗水流して育てられた作物を届けるこっぽいやは池田町を代表する事業ですが、運営元の匠の会のメンバーもお年を召されてきており、70代、80代の方々が中心となり活動されているのが現状です。



新規就農者の獲得



技術の継承

**次世代を担う新規就農者が必要なのではないでしょうか？
畑の作物を育てる技術の継承を積極的に行うべきではないですか？**

質問!

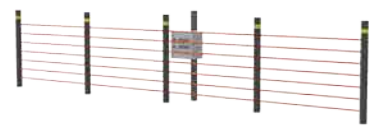
この素晴らしいこっぽいや事業を今後も続けていくために、新規就農者、匠の会の登録者増を目指さなければならないと思いますが、役場として考えている取り組みがあれば教えてください。

A.増員を目的とした支援は予定していない。

増員だけを目的とした特別な支援等については考えていません。この取り組みは、家族の為の家庭菜園で育てた安心安全な野菜をお裾分けする精神から始まり、百姓一品※¹として根付いたものです。



補助金での支援



電気柵等の支援

町としての支援は、有機元気正直農業の認定を受けた補助で農作物を作付けし、収穫後に出荷、販売をした農家を対象に反当たり2万5000円の補助を実施し、また、獣害対策として電気柵等の要望にも対応しています。

役

※1 百姓一品とは(池田町農業公社HPより)

1つ1つの小さな力を持ち寄る事、力を合わせる事、心を合わせることで「1つの品格」を生みだそうという意味。

清水からの提案



空き家対策、移住促進のための中期滞在型古民家



人口減少と空き家の増加がまちの大きな問題

人口減少と空き家の増加が町の課題である一方、コロナ以降地方への移住を検討されている方は増えています。その方々を、池田町に呼び込むことが出来ればこの2つの問題の解決につながると考え、**中期滞在型古民家**を提案します。



農業体験



地域行事の参加

中期滞在型古民家とは移住体験や観光目的で半月から2ヶ月程度、滞在するための拠点を提供する古民家です。

移住検討者のメリット

- 地域の習慣や雰囲気事前に知れる
- 地域コミュニティに参加することができる
- 滞在中に家や仕事を探すことができる
- 実際生活に近いので移住が決断しやすい

貸し出し側のメリット

- 家の中の家電やタンスを整理せずに済む
- 短期の滞在のため、気軽に借りてもらえる
- 滞在費用を固定資産税等支払にまわせる
- 滞在が移住に繋がれば人口増加に繋がる

中期滞在型古民家は、人口の減少、空き家の増加、両方を解決できる可能性のある事業だといえます。空き家さえあれば個人でもできる内容ではありますが、今問題を解決するために町全体で解決していきませんか。



清水のひとこと

みなさんにとって「生活しやすい町」は、どんな町ですか？

生き方、考えが違う中でも話し合い、池田町に生活する人どうし共有できたら良い町づくりのキッカケができるのではないかと考えています。もし「良い町づくり」のいいアイデアがあったらこっそり教えてください。